

老朽原発 うごかすな！ ニュース

第24号

発行・老朽原発うごかすな！
実行委員会

【連絡先】
090-1965-7102

11月12日、高浜町議会

老朽原発再稼働請願を採択

11月12日、高浜町臨時議会が開かれ、40年超え老朽原発高浜1・2号機の再稼働を巡る再稼働推進請願・陳情と熟議や反対を求める請願が審議された。推進請願は、

6日原子力対策特別委員会でも審議されたが、熟議や反対を求める請願は、この日直接審議された。両請願とも一括審議となった。



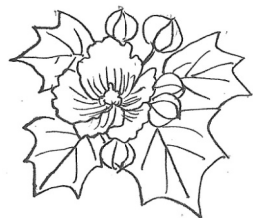
高浜町議会に向けシュプレヒコール

熟議・反対請願は、渡邊議員のみ賛成で不採択、推進請願は同様の採決で採択となった。6日の特別委員会で継続審議を求めた若手議員の3人は、推進請願に対し、請願に賛成するが再稼働に同意はしないという苦しい選択となった。胸の内は、原発の再稼働に反対はしないが、あまりにも拙速なので今、議会として判断するものではないということではないでしょうか。

渡邊議員だけが「請願の経済発展は賛同するが安全性は問題、福島事故は解決していない。あのような重大事故が若狭で起きないと誰が言えるのか。4重、5重の壁が必要なほど原発は危険、安全と平和な町を望む。来年3月の稼働といっているのに何故こんなに急ぐのか、慎重に審議すべき」と強く述べた。賛成討論は8人の議員が夫々持論を展開した。「高浜町は世賃しかつた。働き口が無かった。それを救ってくれたのが原発だった。町民はリスク覚悟で誘致した。町は豊かになった。反対者は、根拠なく不安をおおり安全対策にあまりにも無知。わが町の原発は安全である。石器時代に戻ることを望んでいない。安心・安全をいかに町民に発信するかが大切」、「一町の活性化に寄与するので

賛成」、「新規制基準でこれでもかという程対策が取られている。再稼働して安心して暮らせる街にしてほしい」、「多くの人が高浜発電所で働いている。住民の生活そのものである」、「区長連合会の要望に理解、請願に賛成」。

原発で仕事をしている議員や関連する議員が複数いる議会では、公正な判断など求められる筈もなく、これが現実か。私が聞いた町の人の声には、「40年超え原発心配」、「あまりにも拙速すぎ」、「働いている町民は原発のことについて話してできない」などがありました。



(福井県若狭町 石地優)

国策に翻弄される地元
NOOキロビンモを成功させて闘おう！！

11月12日(木)、高浜町議会臨時議会(議員14名)が開かれた。報道陣が押し寄せるなか、高浜原発1・2号機の再稼働を求める請願及び政府への「高浜1・2号機の40年超運転にかかる意見書」(以下、意見書)を賛成多数で採択した。25日、臨時議会で見解書への政府回答をもとに議会が最終判断、野瀬豊町長に伝え、町の再稼働同意表明となる。

本会議では、最初に再稼働の慎重な判断を求める請願4件について審議した。渡邊孝議員が紹介議員として請願者名や請願趣旨の説明を行われたが、1名が反対討論を行い、採決の結果、賛成少数(賛成1、反対12)で不採択となった。

再稼働を求める請願については、6日の委員会報告の後、反対討論1人、賛成討論8人があり、採決の結果、賛成多



アピールする木原壮林さん

数(反対1、賛成12)で採択されてしまった。政府への意見書は、「国と事業者の原発の安全管理の徹底」「防災・避難対策の実効性を」「立地地域の振興を」など7項目の要望なのだが、再稼働同意前提だと激論が交わされた。採決の結果、賛成多数(反対4、賛成9)で採択され、議長が政府に持参することになった。

風雲急を告げるこの動きは、10月16日資源エネルギー庁の小沢典明首席エネルギー・地域政策統括調整官が高浜町を訪れ、野瀬豊町長に再稼働同意を求めたことが発端だ。再稼働を求める請願は、9月

議会では拙速な判断はしないと継続審議になっていた。政府要請を受け、野瀬町長は議会に意見を求め、議会は11月6日の原子力対策特別委員会、12日の本会議で再稼働

を求める請願の採決を強行、賛成多数で採択したのだ。40年超原発再稼働推進の理由は、「CO2削減のため原発は必要」「共存共栄」「雇用の場の確保」だ。議論

を聞き、国策に翻弄される地元を垣間見た思いだ。菅政権主導の原発推進策、地元の民意判断に、強く抗議する。反対の請願を出したくても出せない「声なき声」を私たちは

しっかりと受け止め、200キロリレーデモを成功させよう!
(反原発自治体議員 市民連盟関西 二木洋子)

岐阜は被害地 美浜老朽原発は怖い

私たち「さよなら原発・ぎふ」は、2011年6月11日から3ヶ月に一度、脱原発デモを続けています(コロナ禍で、2020年3月、6月は中止)。

2012年3月3日、「さよなら原発・ぎふ」として、美浜原発の目の前の水晶浜から、タグをつけた風船1000個を飛ばす実験を行いました。早い知らせは1時間で届きました(岐阜県垂井町)。

4月末までに99個の風船の落下地点から連絡を頂きました。85%は岐阜県内でした。

2012年9月には、岐阜県が「敦賀原発事故想定時の放射性物質拡散シミュレーション結果」を公表しました。仮に敦賀原発(美浜原発の近く)の過酷事故で福島第1原発に匹敵する放射性物質が放出された場合のシミュレーションです。最悪の気象条件では、大垣市(約16万人)の中心部で200μSv/年、岐阜市(約41万人)のほぼ全域で200μSv/年の汚染という衝撃的な結果が出ています。2011年/年以上の住民を避難させるとすると、岐阜県(約200万人)全体

では75万人〜98万人が対象となります。「岐阜県が消滅する」のです。岐阜県は原発立地県ではなく、関西電力から電力供給地域でもありませんが、もし福井の原発に事故が起これば、季節を問わず吹いている北西の風によって被害がもたらされます。ところが、岐阜県内で、関電の発表や、福井県の動きが報道されることは殆どありません。圧倒的多数の岐阜県民は「関電が来年1月にも美浜原発3号機を再稼働させると発表した」事実を知りません。

どの原発も危険ですが、老朽原発は事故のリスクが格段に高まります。老朽原発は「凶器」です。44年超の美浜3号機が

動けば、私たち岐阜県民は、大変な危険の下で暮らすことになります。「知らないから怖くない?」「そんな「安心」はご免です。皆さまのお力をお借りしつつ、「美浜老朽原発は絶対にうごかすな!」の声を大きくしていきたいと思えます。

(さよなら原発・ぎふ 近藤ゆり子)



11月23日午後1時、関西電力本店前に集まろう!